



2月号

2016 年

月	火	水	木	金	土	日
1 					6 	7 SSK 作文倶楽部 キッズラボ 新小1～3 体験会・説明会
8 		10	11	12	13 ◇第16回 SST 年中セミナー	14 
15 		17	18	19	20 	21 
22 		24	25 	26 	27 	28 
29 						

☆最終授業日は、2月24日（水）です。

☆2月25日（木）～2月29日（月）は、シーガルスクールはお休みです。

☆新年度の授業は、3月1日（火）から始まります。



は、休塾日です。

お問い合わせ

月	火	水	木	金	土	日
1 					★キッズラボ 月2回クラス ●作文倶楽部 月2回クラス ◆SST年長 土曜日クラス	SSK 作文倶楽部 キッズラボ 新小1～3 体験会・説明会
8 					☆キッズラボ 月1回クラス ◆SST年長 土曜日クラス ◇第16回 SST 年中セミナー	14 
15 					★キッズラボ 月2回クラス ●作文倶楽部 月2回クラス ◆SST年長 土曜日クラス	21 ☆キッズラボ 月1回クラス
22 			25 	26 	27 	28 
29 						

☆キッズラボ日曜月1回クラスは2月7日から21日に変更になりました。

詳細は配布いたしましたご案内をご確認ください。

☆SST・SSK・作文倶楽部・Leptonの最終授業日は、2月24日（水）です。

☆キッズラボの最終授業日は、2月21日（日）です。※2月23日（火）・24日（水）のキッズラボはお休みです。

☆2月25日（木）～2月29日（月）は、シーガルスクールはお休みです。

☆新年度の授業は、3月1日（火）から始まります。



は、休塾日です。

お問い合わせ

2月のご案内



SSK・作文倶楽部・キッズラボ 体験会・公開説明会開催

国語・算数を通じて、本物の「論理的思考力」を育むコース、SSK（シーガル・スーパー・キッズ）と、作文を通じて「自分を表現する力」を身につけるコース、シーガル作文倶楽部の無料体験会と説明会を同時開催します。学校のカリキュラムにとらわれない独自の教材と、低学年の子どもたちの特性を活かしたテンポの良い授業で、子どもたちの将来に通じる、本物の学力を伸ばしていきます。

また、「科学する心」を育てる理科実験コース、キッズラボの無料体験会と説明会も同時開催します。本格的な実験を通して、子どもたちの興味・関心を引き出し、科学的思考力や鋭い観察眼を養います。

中学受験の準備としても最適なSSK、作文倶楽部、キッズラボをぜひ一度ご体験ください！

★くわしい開催日時などにつきましては、別途配付しました説明会・体験会のご案内をご覧ください。



新年度のご案内

3月より始まる新年度を迎えるにあたり、2月に以下のご案内を配付いたしますので、必ずご確認ください。

- ・2016年度スクールカレンダー（休校日やイベント実施日を示した年間予定です）
- ・2016年度キッズラボカレンダー（キッズラボ受講生のみ）
- ・COSMOS団員規約（小学生のみ・申込の手順や年間のイベント実施予定も記載しています）

ご不明な点がございましたら、スタッフまでお問合せください。



最終授業日のお知らせ

今年度最後の授業は、2月24日（水）です。

2月25日（木）～2月29日（月）までは、通常授業はお休みとなりますのでご注意ください。

なお、新年度の授業は3月1日（火）から始まります。（新小1クラスは、3月29日（火）からになります。）

受講されるコースの初回授業日については、別紙「受講クラスのお知らせ」にてご確認ください。



シーガル文庫より

2月中は、文庫の整理と点検のため、図書の貸出しを停止させていただきます。

なお、シーガル文庫の本をお持ちの方は、最終授業日までに必ずご返却ください。



生き物の中で一番は…人間？

冬の寒さが続く中、シーガルスクールでは残り 1 ヶ月で新年度を迎えようとしています。

SSK の2年生は1月に『エゾオオカミ物語』（あべ弘士 著）という物語を取り上げました。これは昔、日本で起きた動物たちの物語です。

昔、北海道には『エゾオオカミ』が生息していました。原住民であるアイヌの人々とは互いの息遣いを感じながら共存することが出来ていましたが、内地から人が移り住み、開拓を始めるとエゾオオカミの暮らしは次第に変わっていききました。

ある冬のこと。雪が例年よりも多く降り積もり、草が雪に埋もれ、エゾオオカミの餌であるエゾシカの数激減しました。そこでエゾオオカミたちは内地から来た人々の家畜を襲い、それに困った人々はエゾオオカミを一匹残らず殺してしまったのです。

年月がたち、エゾシカの数が少しずつ増え始め、今度は食べられることのなくなったエゾシカが増えすぎてしまい、畑を荒らすようになったのです。

この物語の終盤には、「今度はエゾシカが悪者になっておるが、そうしたの“だれ”なんじゃろう？」という一文。これを読んだ子どもたちは、始めは「エゾオオカミがわるいんじゃない？」「雪が降らなければよかったのにね」などと話していました。そこで次の授業では生態系のピラミッドを使いながら物語の中で“だれ”が悪いのかを考えていきます。雪が降り、エゾシカの数減ってしまったときに、もしも人々の家畜がおらず、自然とエゾオオカミの数減っていったら…生態系のバランスは崩れず、次第に元のピラミッドに戻っていくはずだったのです。

また別の日。今度は実験室から「生き物の生態系が…」という話し声が聞こえてきます。授業をしているのはキッズラボの4年生。『ミニ地球』というテーマについて、実験をしています。地球の中で『生産者』にあたる植物がどのように光合成をおこなっているのか、『分解者』にあたる微生物が何をおこなっているのかなどを実験を通して学んでいきます。ここで子どもたちから、

「人間はこのピラミッドのどこなんだろう？」

「人間が一番上なのかな？」

という疑問が出てきました。そう、この疑問は SSK 小2の『エゾオオカミ物語』を読んでいた子どもたちからも出ていたのです。

確かに文明を手に入れた人間は「強い」かもしれませんが、けれどその「強さ」は大自然の掟からは外れた「強さ」であり、私たち人間は生態系のピラミッドには含まれません。それどころか、ピラミッドの外側からピラミッド内の動物や植物を傷つけ、ピラミッド自体を崩してしまう存在なのです。SSK の子どもたちは物語を通して、キッズラボの子どもたちは理科実験を通して、最後に本当の悪者は“人間”だということに気づきます。その気づきさえあれば、自分も地球に暮らす一員として、ピラミッドを崩さない一手を考えることが出来るのではないのでしょうか。

